

家計調査報告（貯蓄・負債編）

- 2022年（令和4年）平均結果 -
（二人以上の世帯）

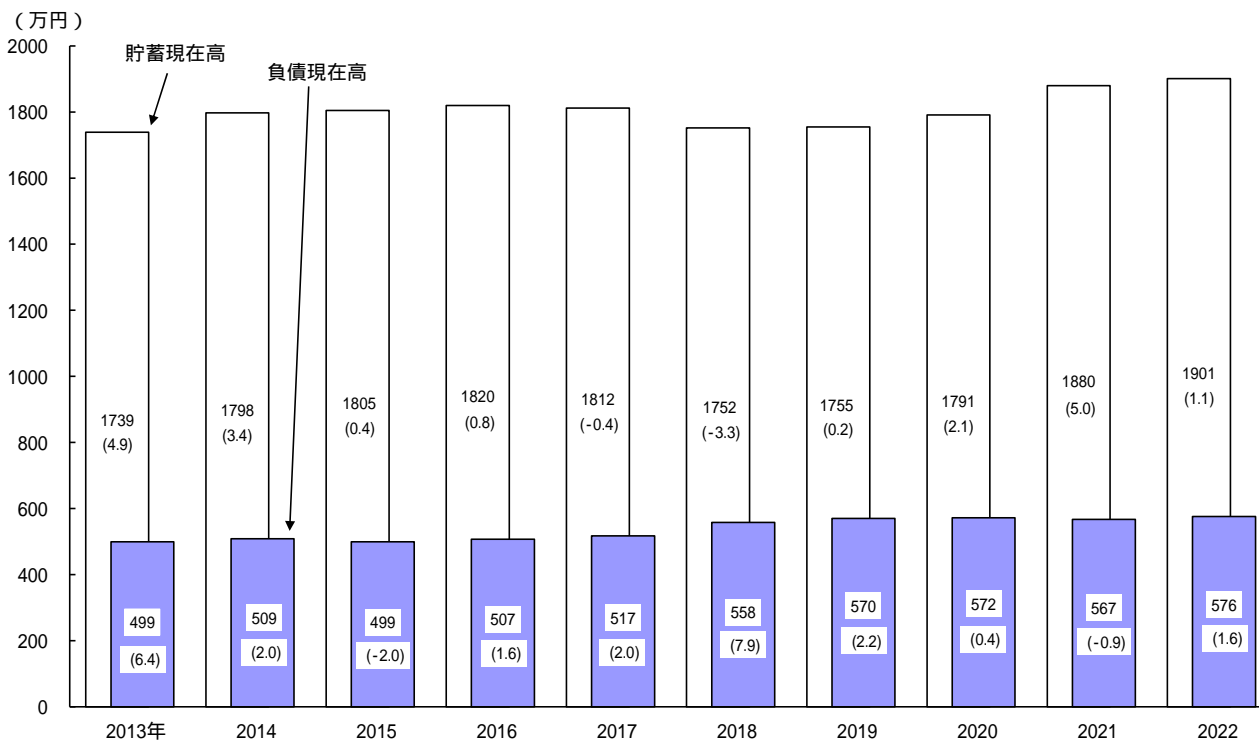
1 1世帯当たり貯蓄現在高は1901万円で、前年に比べ1.1%増加し、4年連続の増加。貯蓄保有世帯の中央値は1168万円。負債現在高は576万円で、前年に比べ1.6%の増加。負債保有世帯の中央値は1231万円

二人以上の世帯における2022年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は、1901万円で、前年に比べ21万円、1.1%の増加となり、4年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となっている。このうち勤労者世帯では、1508万円で、前年に比べ54万円、3.7%の増加となっている。また、二人以上の世帯の貯蓄保有世帯の中央値は、1168万円となっている。

貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を含めた平均値

二人以上の世帯における2022年平均の1世帯当たり負債現在高（平均値）は、576万円で、前年に比べ9万円、1.6%の増加となっている。このうち勤労者世帯では、879万円で、前年に比べ23万円、2.7%の増加となっている。また、二人以上の世帯の負債保有世帯の中央値は、1231万円となっている。

図1 貯蓄・負債現在高の推移（二人以上の世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

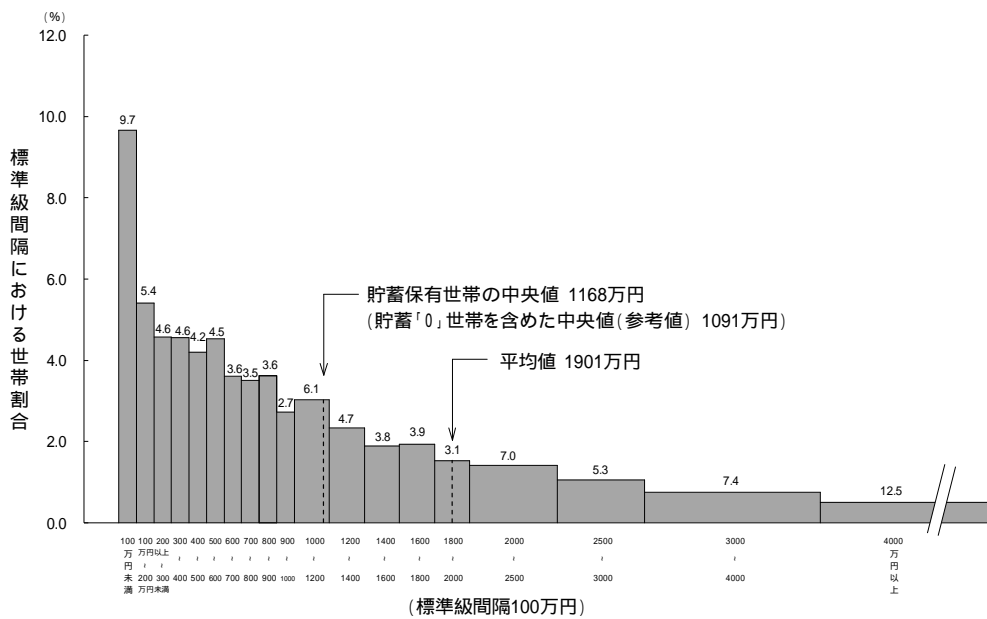
2 約3分の2の世帯が貯蓄現在高の平均値（1901万円）を下回る。

貯蓄現在高の内訳は、通貨性預貯金が14年連続の増加、定期性預貯金が2年ぶりの減少

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1901万円）を下回る世帯が約3分の2（66.3%）を占め、貯蓄現在高の少ない階級に偏った分布となっている。

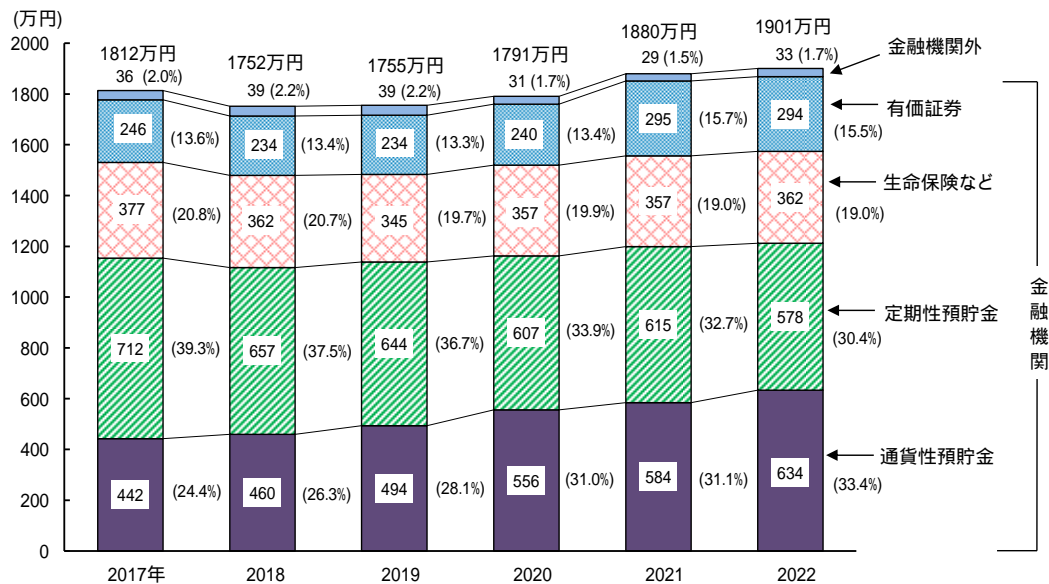
貯蓄の種類別に貯蓄現在高の推移をみると、通貨性預貯金、「生命保険など」及び金融機関外は、前年に比べ増加となっている。通貨性預貯金は、634万円で、前年に比べ50万円、8.6%の増加となり、14年連続の増加となっている。定期性預貯金は、578万円で、前年に比べ37万円、6.0%の減少となり、2年ぶりの減少となっている。

図2 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2022年 -



- 注1) 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。
注2) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いいため、縦軸目盛りとは一致しない。

図3 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



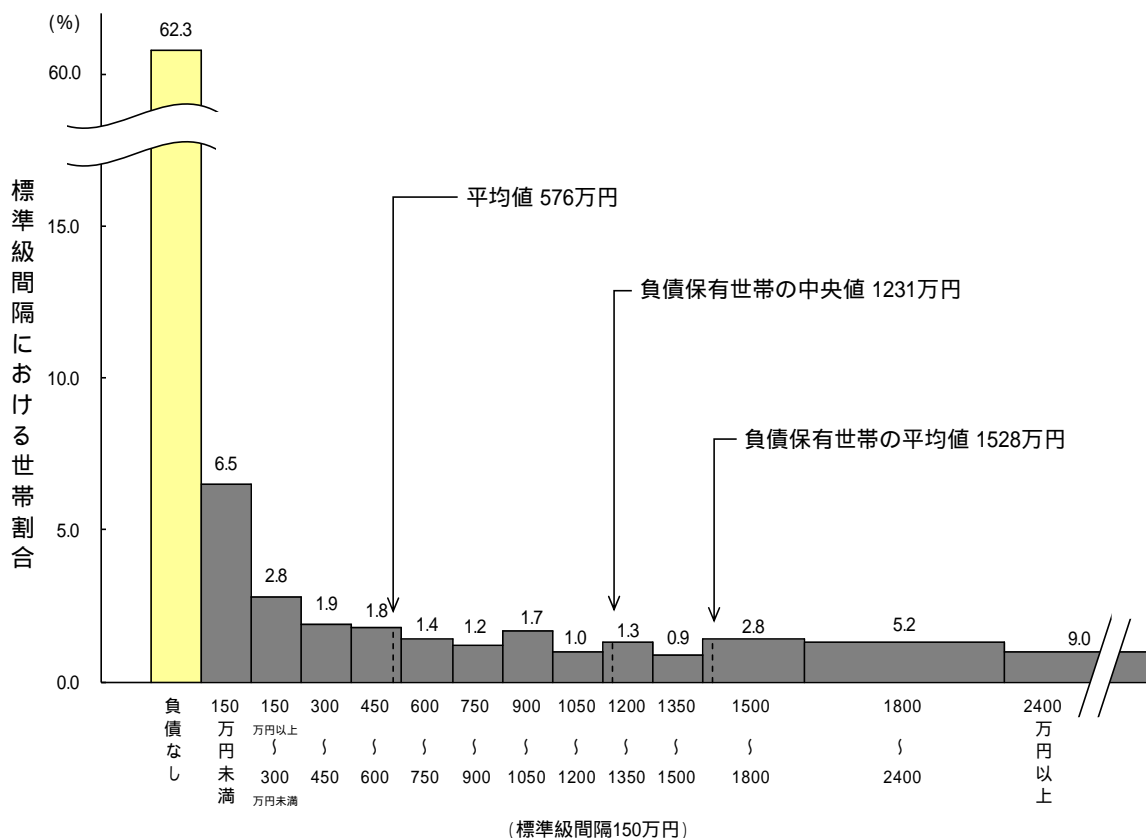
注) () 内は、貯蓄現在高に占める割合

3 負債保有世帯の割合は約4割。 住宅・土地のための負債が負債現在高の約9割を占める

二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合は、約4割（37.7%）となっている。
負債保有世帯では、負債現在高の平均値（1528万円）を下回る世帯が約6割（55.4%）を占めている。

負債の種類別に負債現在高をみると、負債現在高の約9割（91.3%）を占める住宅・土地のための負債は、526万円で、前年に比べ13万円、2.5%の増加となっている。

図4 負債現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2022年 -



注1) 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

注2) 標準級間隔150万円（負債現在高1500万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、負債現在高1500万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いので、縦軸目盛りとは一致しない。

表 負債の種類別負債現在高

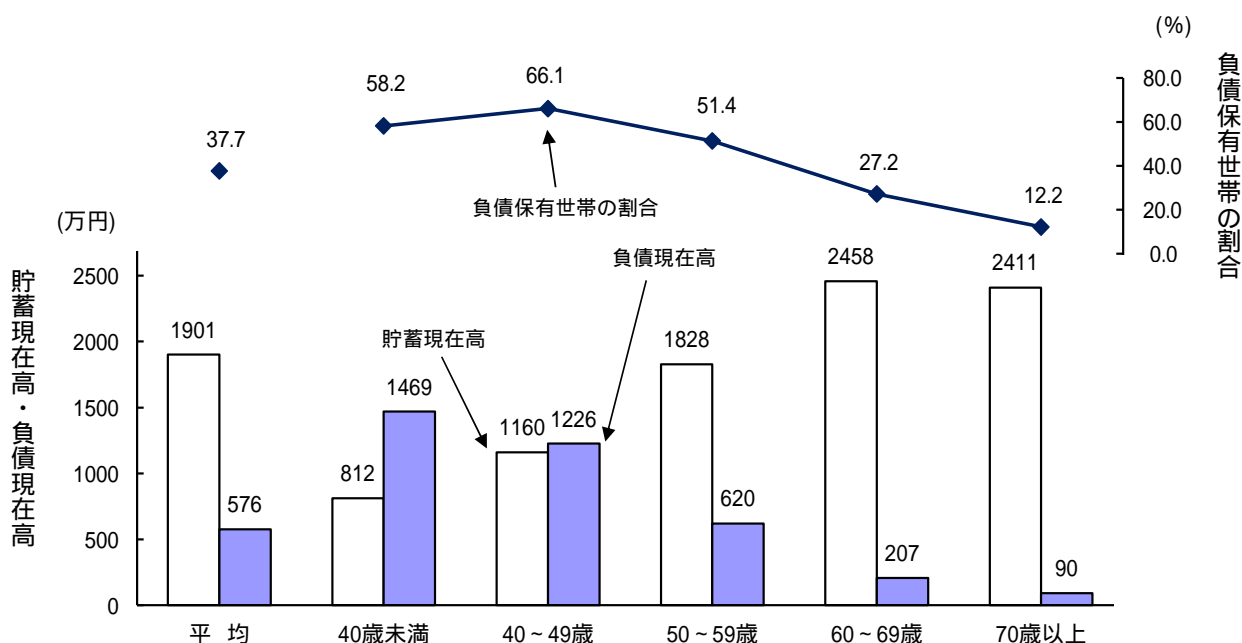
項目	二人以上の世帯				
	2021年	2022年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	567	576	100.0	1.6	37.7
住宅・土地のための負債	513	526	91.3	2.5	28.6
住宅・土地以外の負債	39	35	6.1	-10.3	7.8
月賦・年賦	16	15	2.6	-6.3	12.1

4 世帯主が50歳以上の各年齢階級では貯蓄超過で、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2321万円と最も多い。一方、50歳未満の世帯では負債超過

二人以上の世帯について世帯主の年齢階級別に純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2321万円と最も多くなっている。一方、50歳未満の世帯では、負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

負債保有世帯の割合は40～49歳の世帯が66.1%と最も高く、40歳以上の世帯では年齢階級が高くなるに従って低くなっている。

図5 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合（二人以上の世帯） - 2022年 -



問合せ先



総務省統計局統計調査部
消費統計課審査発表係
電話 03(5273)1174

・家計調査（貯蓄・負債編）ホームページ
<https://www.stat.go.jp/data/sav/1.html>

この資料のPDFファイルは、次のURLからダウンロードできます。
<https://www.stat.go.jp/data/sav/sokuhou/nen/index.html>

・政府統計の総合窓口（e-Stat）
<https://www.e-stat.go.jp/>

家計調査の最新情報はこちら！

・結果の概要は、統計メールニュースでも配信しています。
メールニュースのお申込みは、統計局ホームページから。
<https://www.stat.go.jp/>

Family Income and Expenditure Survey (Savings and Liabilities)
(in English)
<https://www.stat.go.jp/english/data/sav/index.html>

Portal Site of Official Statistics of Japan (in English)
<https://www.e-stat.go.jp/en/>

統計データを引用・転載する場合には、出典（府省名、統計調査名）の表記をお願いします。